

中国を見て・感じて・探る…大連事務所発のレポート

人民日報の日本向けネットニュース「人民ネット」より

## フォーブス誌の「大陸部最優秀商業都市番付」から見取る問題点

米経済誌「フォーブス」が選ぶ「2010年中国大陸部最優秀商業都市ランキング」がこのほど発表された。トップ10はそれぞれ広州市（広東省）、上海市、深セン市（広東省）、杭州市（浙江省）、蘇州市（江蘇省）、北京市、無錫市（江蘇省）、寧波（ニンポー）市（浙江省）、南京市（江蘇省）、天津市となった。広州は昨年トップの上海を退け、最優秀商業都市に選ばれた。上海のランクダウンと、今回のランキング全体から、以下の4つの問題が見て取れる。

このランキングは中国の大陸部654都市のうち、09年の国内総生産（GDP）が360億元以上の132都市を対象として、基本データを集め、順位を独自に決めたもので、主な指標は、人材指数、都市規模指数、経営コスト指数、旅客輸送・貨物輸送指数、資本活力指数などで、最高の都市が1ポイントで順位がさがればポイントが少なくなり、最下位は0ポイント。

客観性のある社会データをもとに指標化したもので、ある程度説得力のあるものだ。例えば、上海は都市の経済規模は最高だが、コストもかかるので、総合的にみれば、中国で最も商業に向いている都市かどうか検討する必要があるというような考え方を、数値化し、ランク付けしたものだ。

この記事で指摘している問題点とは、①不動産価格の高騰 ②交通渋滞 ③人材の量と質 ④地域連携による発展の可能性 など4つの問題点を指摘し、都市発展の要素や阻害要素について解説したものだ。

このランキングで、大連市は 11 位だった。中国の東北地方では最高位で、遼寧省の省都・瀋陽は 19 位、吉林省の省都・長春は 52 位。渤海を渡った山東省の青島は 13 位、煙台は 15 位で、大連の 11 位は、昨年から 2 ランク上がったことをも考慮すれば、まずまずの位置をキープしたと言えるだろう。

それぞれの指数を比較すると、大連市は、商業都市として他都市に比べて、どこに利点があり、どこに弱点があるか理解できる。

例えば、コスト指数などは、総一位の広州が 0.22 に対して大連は 0.30、最下位の上海は 0 であり、ベスト 11 にランクした都市の中では、無錫に続いてコストがかからない経営ができるということだ。また、人材指数は 0.85 で、広州、上海とほぼ同じで、優秀な人材は確保しやすい街だと言えるだろう。

旅客輸送・貨物輸送の指数について、広州は 1 で両方最高点だが、大連も 0.81、0.86 と劣ってはいるが、他都市に比べればかなり高い数値で、東北地方の国際物流拠点として港湾や空港、道路・鉄道網により人流・物流の面で優位性があることを示している。

消費力については、ベスト 10 の都市がいずれも 0.8 以上なのに対して、大連は 0.60 と明らかに劣っており、調査した 132 都市中の 58 位だ。東北地方は、華南や広東、北京・天津に比べ、全体的にはまだ貧しく、大連市の消費力はかなり弱いと言わざるを得ない。

このランキングは、あくまでも商業都市として適するかどうかという調査であり、工場の立地やソフトウェア産業の立地の適地などを検討する上では参考にならない数字だろう。しかし、商業を中心とした都市として大連が発展していくための課題は示しており、消費力をどう底上げしていくかが、ベスト 10 入りするためには最も大きな問題となっている。